

馬誌

器具部

二十六

和書門			
一七三九五	函	架	冊
一三〇	函	架	冊
六二	函	架	冊

内閣文庫			
五四	函	架	冊
一七三九五	函	架	冊
二六二	函	架	冊
二一	函	架	冊

武備兵法

内閣文庫		
番號	和	17395
冊數	62 (27)	
函號	154	455



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



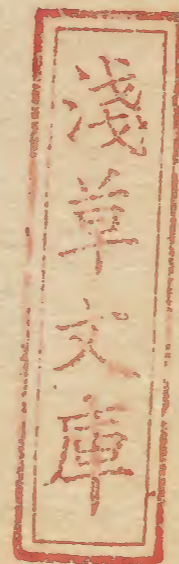
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



馬誌卷之二十六目錄

器具部

鞍



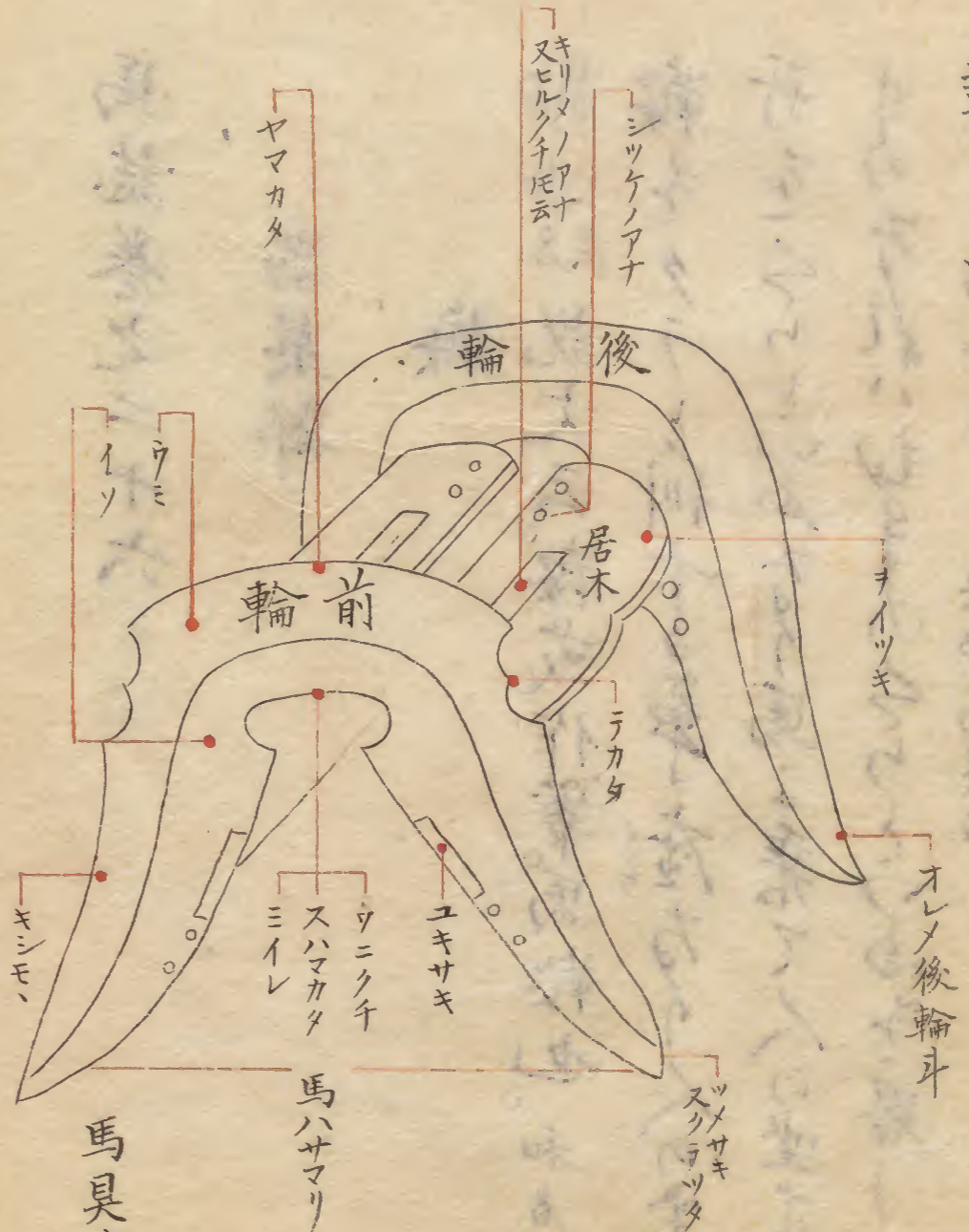
馬誌卷之二十六

器具部

鞍

- 一 鞍 和名 説文云。鞍或作鞞。馬鞍也。和名抄
- 一 鞍をクラといふなり。馬に乗て人の坐する所をくらといふなり。馬に乗て人の坐する所のなれはむすものくらといふを畧しとくといふなり。安部馬具佐

鞍名所



馬具寸法記

一名所

一 鞍橋 和名久良保禰 一云鞍尾 和名抄

一 鞍骨 和名大り 安部馬具佐

一 西土の鞍橋は西方の品と形ち異よ

前後輪も居木もひとよ造りつけ

其形勢宛轉しそりたるか

ついでに尾も似るゆへ其名称を名

ついでに鞍橋とも鞍尾ともいふなり享保

中長流より唐山の鞍具を繪巻に作る

官家子捧けたりし其當本を摹寫し

たるを見しよりほ収の上鞆橋と題し

たり是くら木ねの全跡の題目たり本朝軍器

疑致標

居木 居木と居木木といふの義たり又神

木といふ古六地の本を以て作れり近代を

合歡木を用也

居木先 凡ともいふ

切組 前後輪に撓み入る所なり

搦孔 前後輪の縛り糸を通す穴なり

渦孔 うつあふ 切付表めの穴ともいふ

渦孔の内外を物付の穴といひ左を捕付

の穴といふ

は外逆組通りあり山道といふあり是も

外例の形を以ていふ居木間ハ居木二つの

間のすきまをいふ 以上おた馬具佐

一 居木を由木といふははこゝろの意ハあらず

長秋社の保延元年の條に鞆の後のゆき

に餉料を左右に付ると有りまゝ信範の
壽永元年の記も白布鞞搦ゆきかみと見え柘花
葉葉も腹帯。白由木搦とありぬ。由木を
古き名なり。三議一統も由木と見えぬ。
居木といふ音の通するより通し世より
訛りたるあり。軍記考補正

一 鞞の米輪 尻輪

一貫曰く是ハ世ハ昔を知らざる事
なるハ愚評也。及今ハ永久記に如地丹内

ハ川を渡りたるの鞞の米輪より證こめて
尻輪は射付られてと見えたり。まゝと
小笠原傳書氷島ト也予の祖父ハ米輪後
輪とありて今俗通用せる所も斯の
如くあれハ後輪と唱ふ一き也 榎室記

一 鞞の前つ輪

一貫曰く前つ輪といふの字ハ助語にて
もあり。さるハ天津風沖つ波たると地
例の如く古今著聞集に前つ輪を突

たけとあり宗長記は小笠原元長明應九年の記なり前つ輪
尻つ輪阿り竹馬記大岐利綱永正八年の記なり尻つ輪
見ゆ彼是より考ふべし 同上

一 山形 やまがた 高くして形の似るを以ていふ

海 うみ 山より下にある中なり

磯 いそ 海と名の異なるをいふ

洲濱形 すゐはし 形が似るより海の縁を以て

いふ又鰐口形を以てかくいふとも又見入

ともいふ 上安部馬具佐

一 鞍の茶輪のくろたるを伊勢守因幡

当れ流は洲濱形といふなり 駿河の上野

守の流は鰐口といふなり 物老ハ何れなり

喝へてもよし 後輪も同様なり 季 多法私書

手形 てがた 手掛ともをいふともいふ 安部馬具佐

一 鞆の形阿る事ハ平治の合戦よりてし

まる 悪源太の謙田正清よをいへけるや

うや 小條五代記

一 平治物語待賢門軍の條十二月廿七日乃

己の刻するなりなる一材兩なるとして風
まけく吹たりけり福田の鞍の糸輪
もつらぬれに乗りぬる悪源太
是を見終ひては形を付すのれやと
宣ひは走ハ打物姫さつとと形
を切てそ乗たりける鞍子に形を付す
事ハ此時よりまされり

負犬曰く糸よりつらひたるは子形を
切ると云を以ては形ハ糸より用る

事を考へ知る一糸上と糸下を掛
るなり 武蓋考證

一 綏穴 一不てあか 又四方に通ともいふ

雉股折 まじりあり 形を以ては雉子股ともいふ

里もいふあり

凡先 つめさま 又凡節ともいふ

俗に雉子股と凡先の間をいふと

切付著 きりつけ 又馬膚ともいふ雉子股の裏を

いふなり 以上安都馬具佐

一 日子遲神出雲國いこ ちのこみよりやまのこの布ぬい倭國やまと小こままて

んとてよそひたてるととき片沖こて手てハ沖馬ひま

の鞍くらよかけ片沖こて定ぢやうと其沖こ澄ぢやうよふみみ是こ

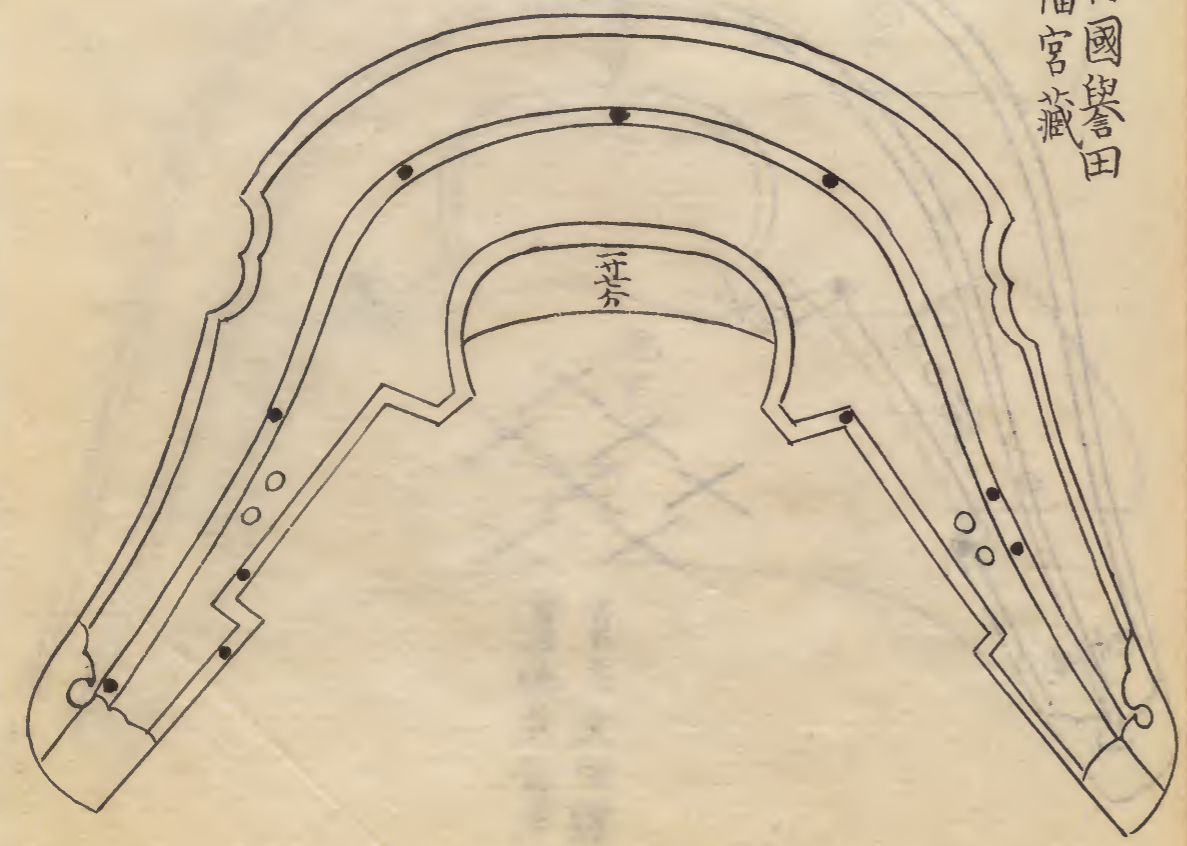
と歌作うたこれ事こと古事こ記きよ見みええこれハ

地神ちのつみのとき鞆たもと澄ぢやうたとい物ものハ既いハ阿あり

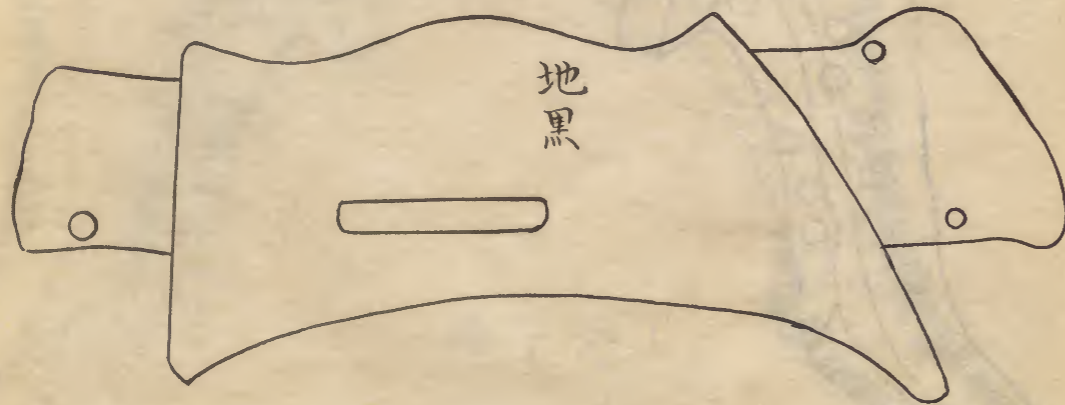
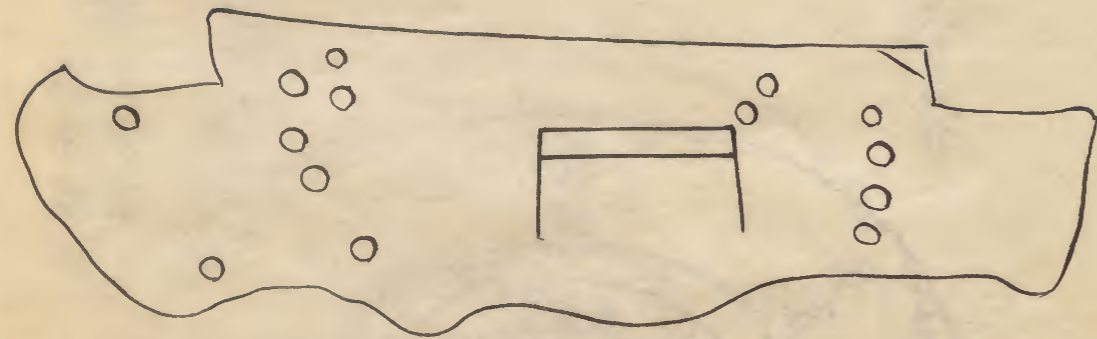
本朝軍器考

一 頼朝卿鞍 河内國譽田八幡宮藏

前輪 皆黒漆

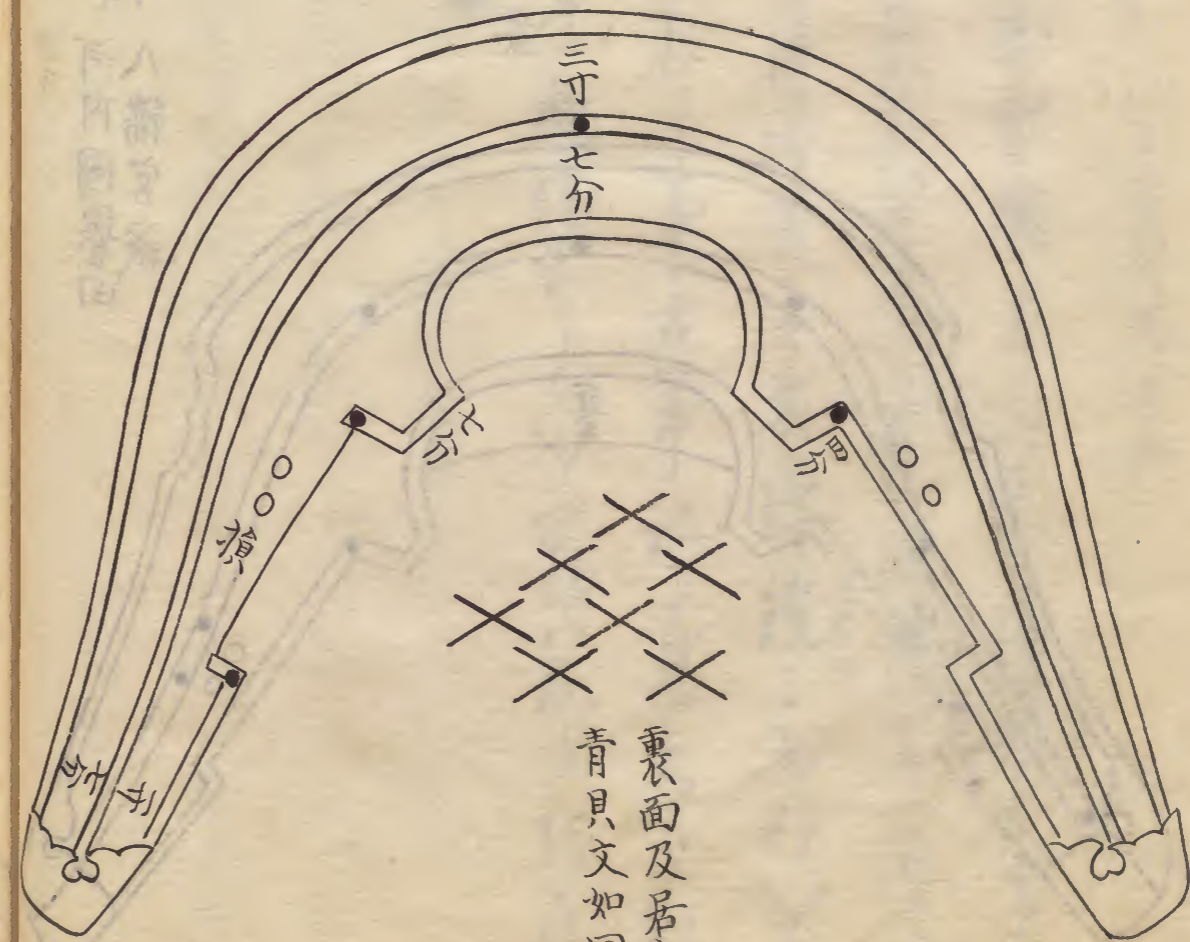


木居



地黒

輪後



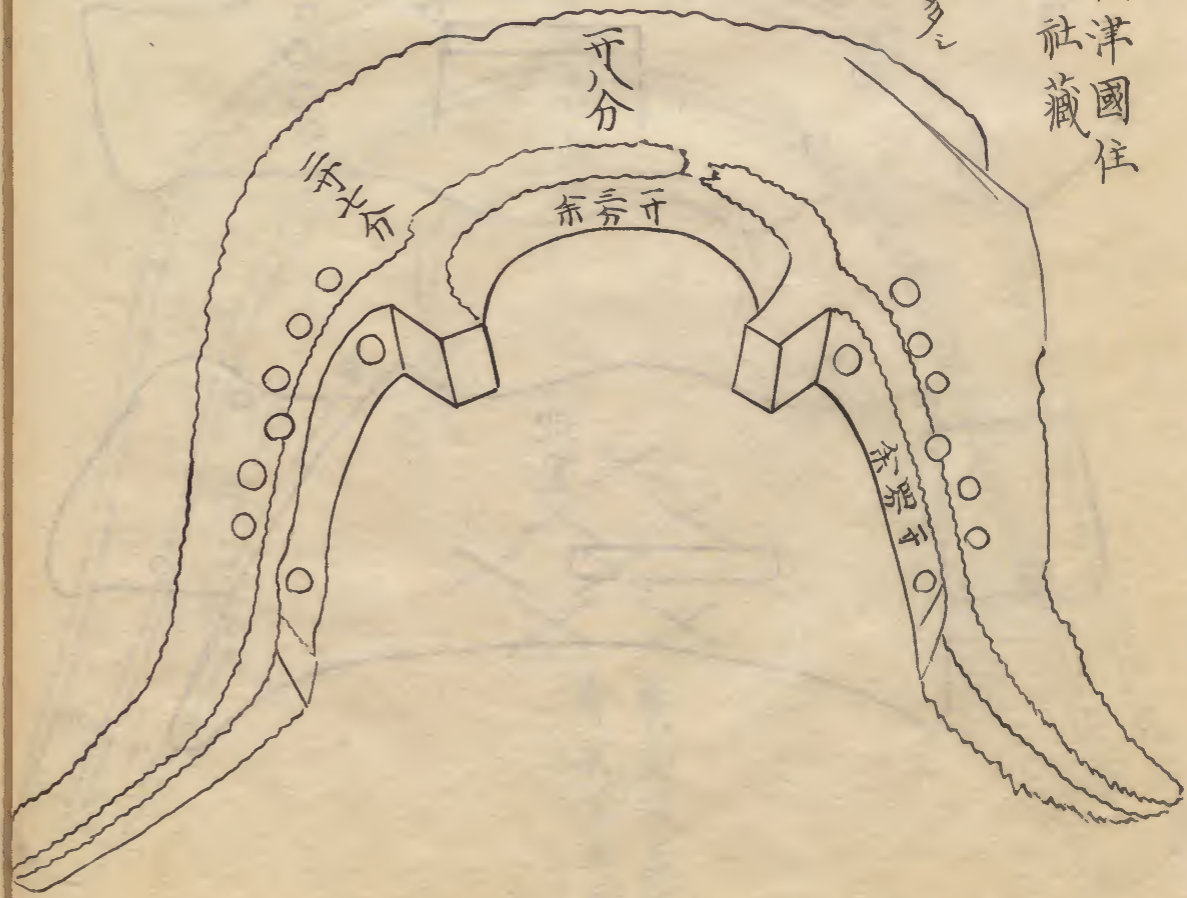
三寸七分

損

裏面及居亦
青貝文如圖

一 源義經鞍 攝津國住吉社藏

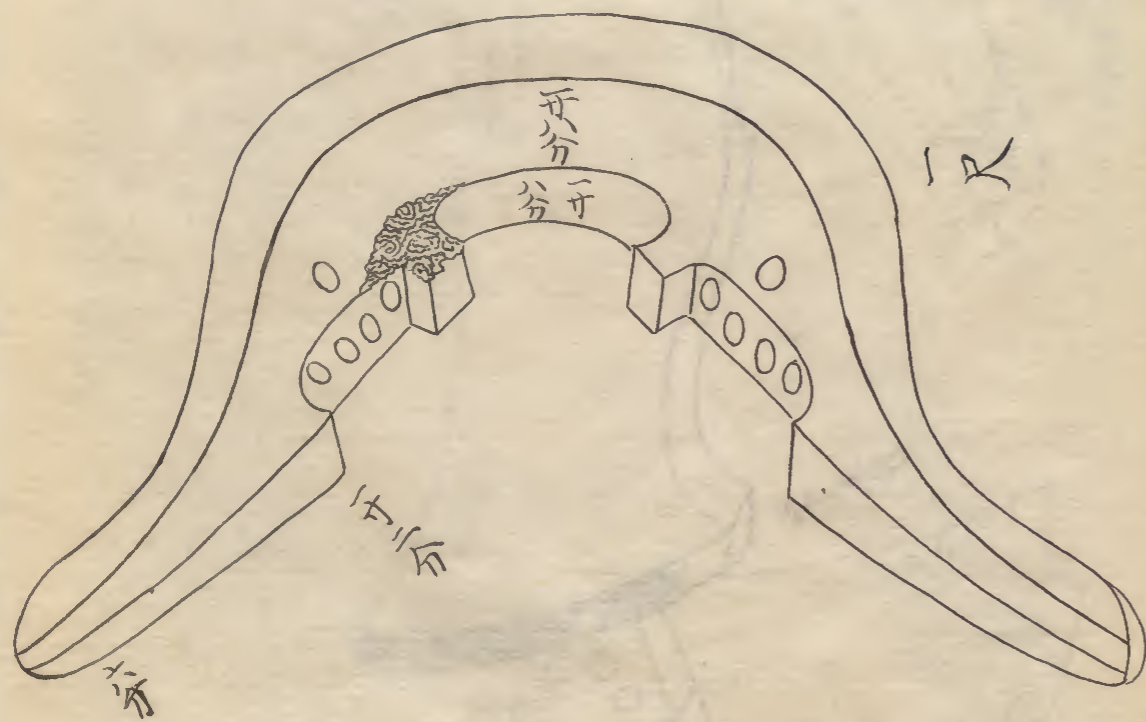
皆黒漆剥落多



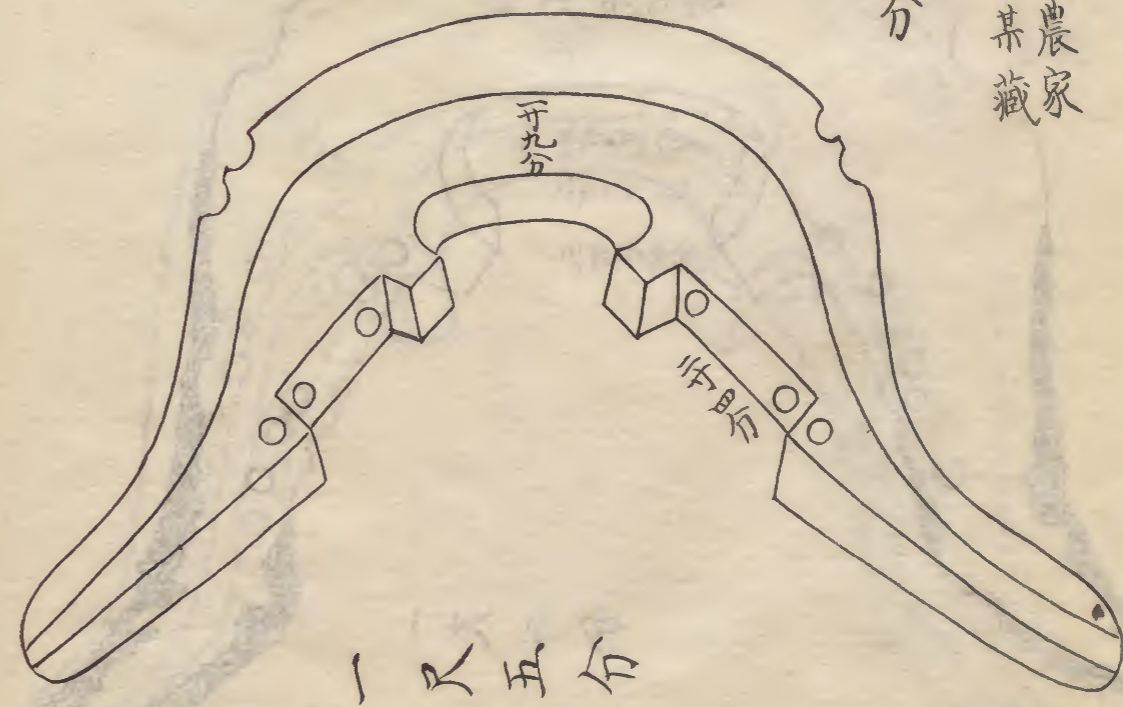
高九寸五分



輪後



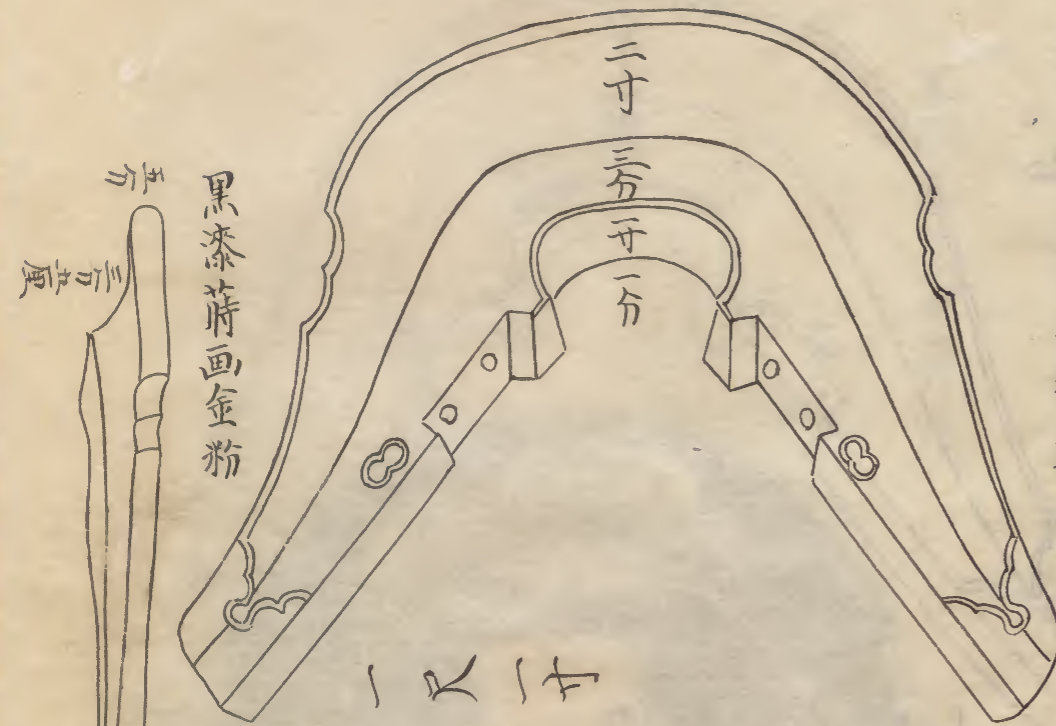
輪前



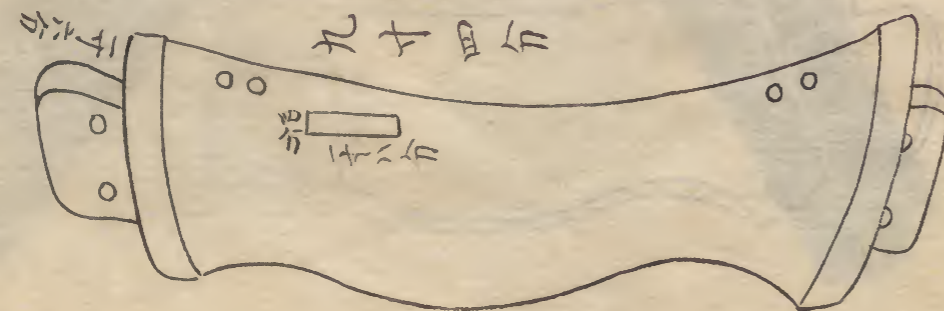
一源義經鞍 泉州農家
北村某藏

高七寸五分

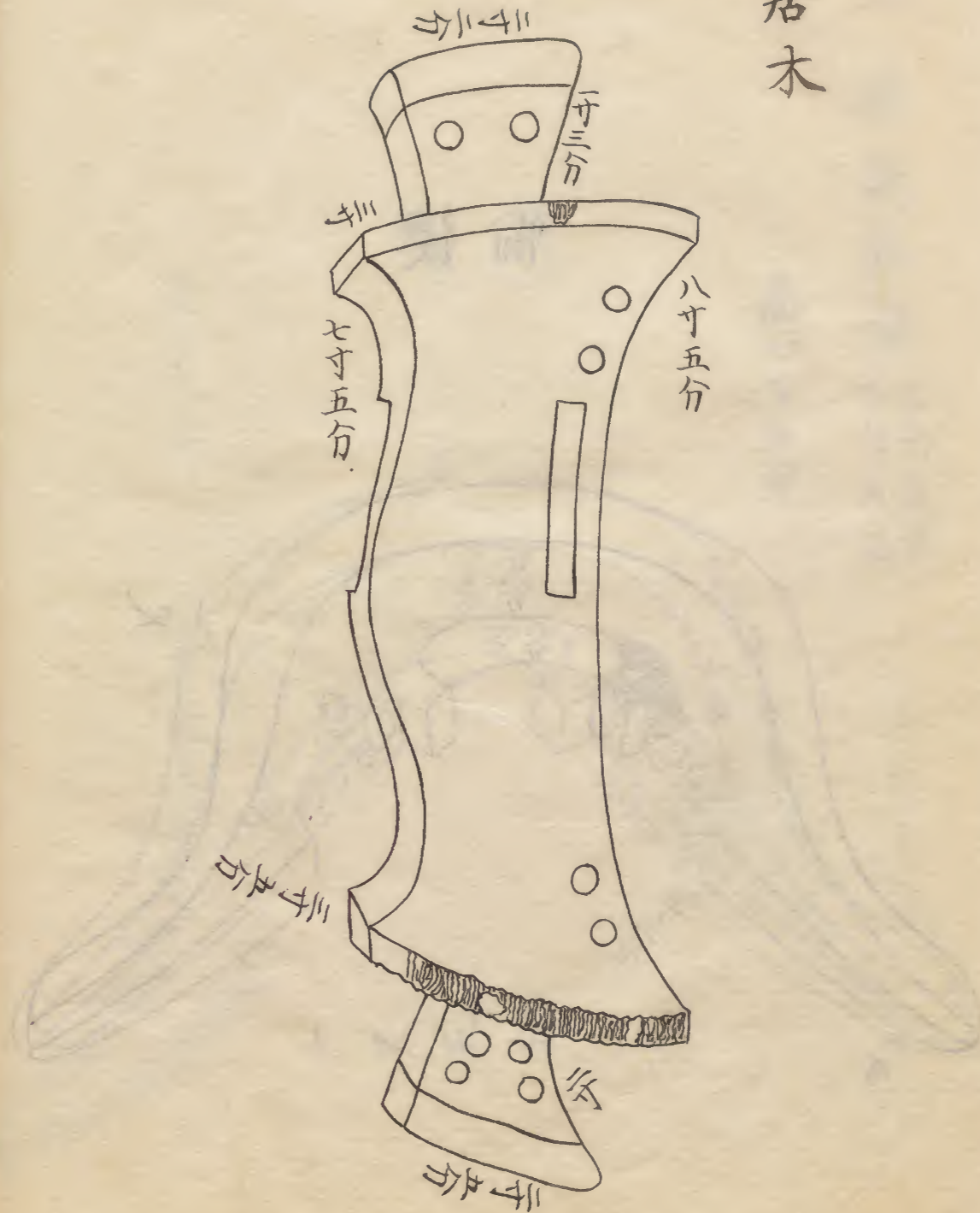
前輪



一大塔宮鞍 本阿彌三郎 兵衛藏



居木



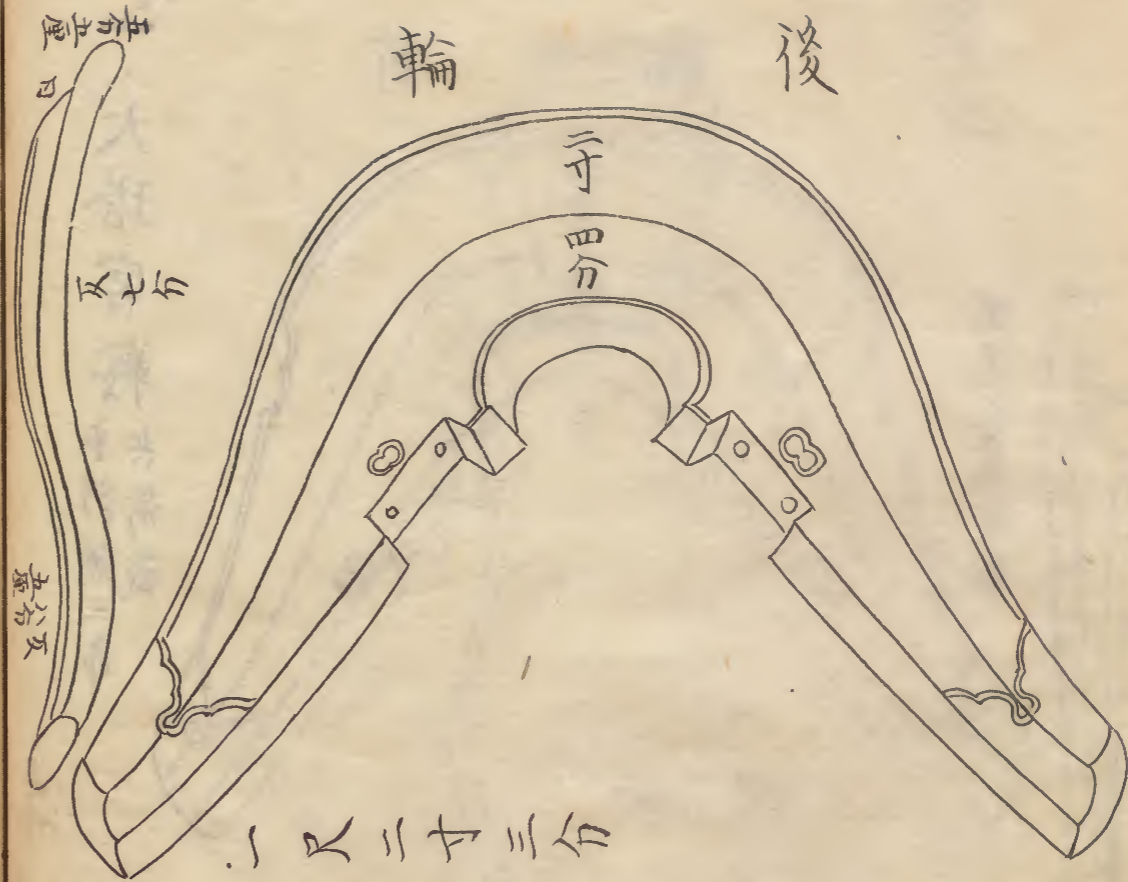
前輪



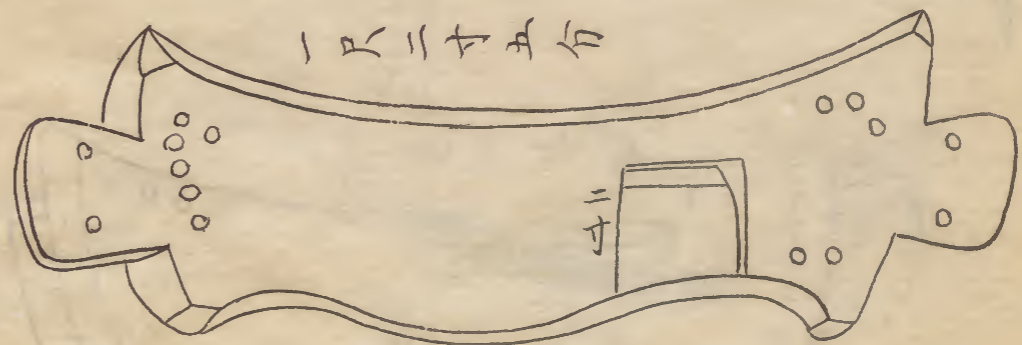
黒漆香包金蒔繪

一源義政公鞍
會津家臣坂本
覺兵衛藏

後輪



一尺二寸三分



一尺二寸五分

二寸

同由木



後輪



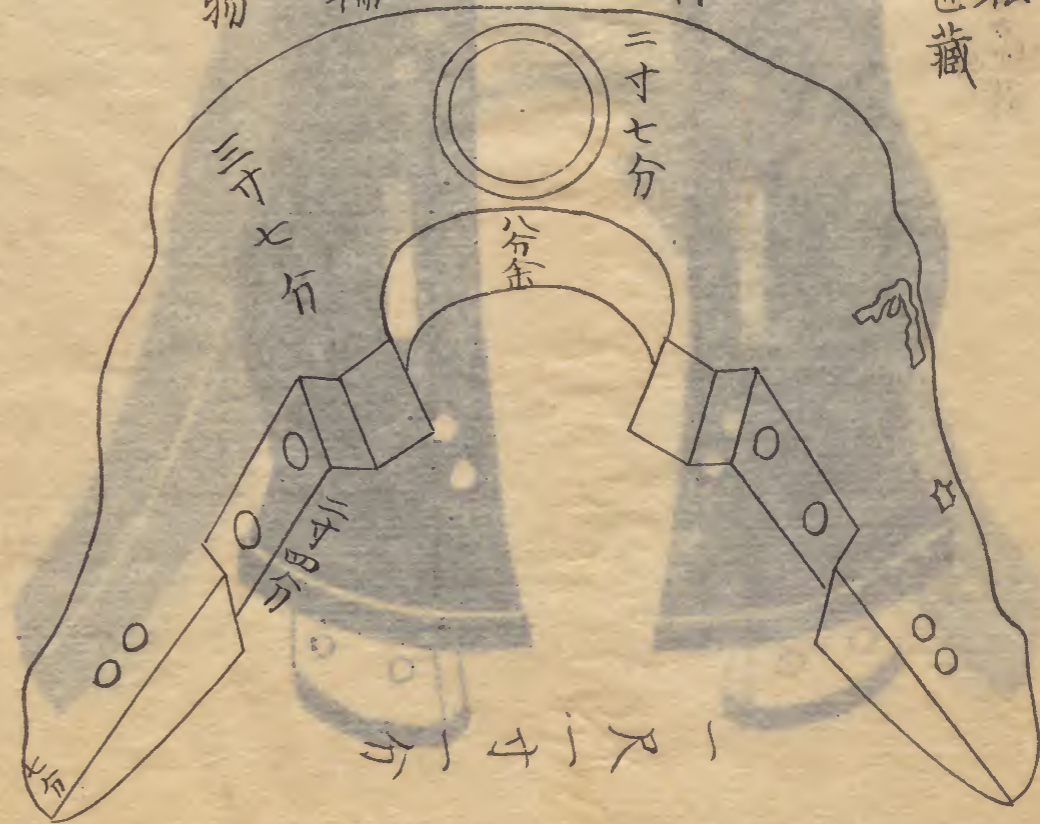
一 佐藤嗣信鞍 高松内匠藏

前輪紋
大廿如圖



赤銅置物

前輪



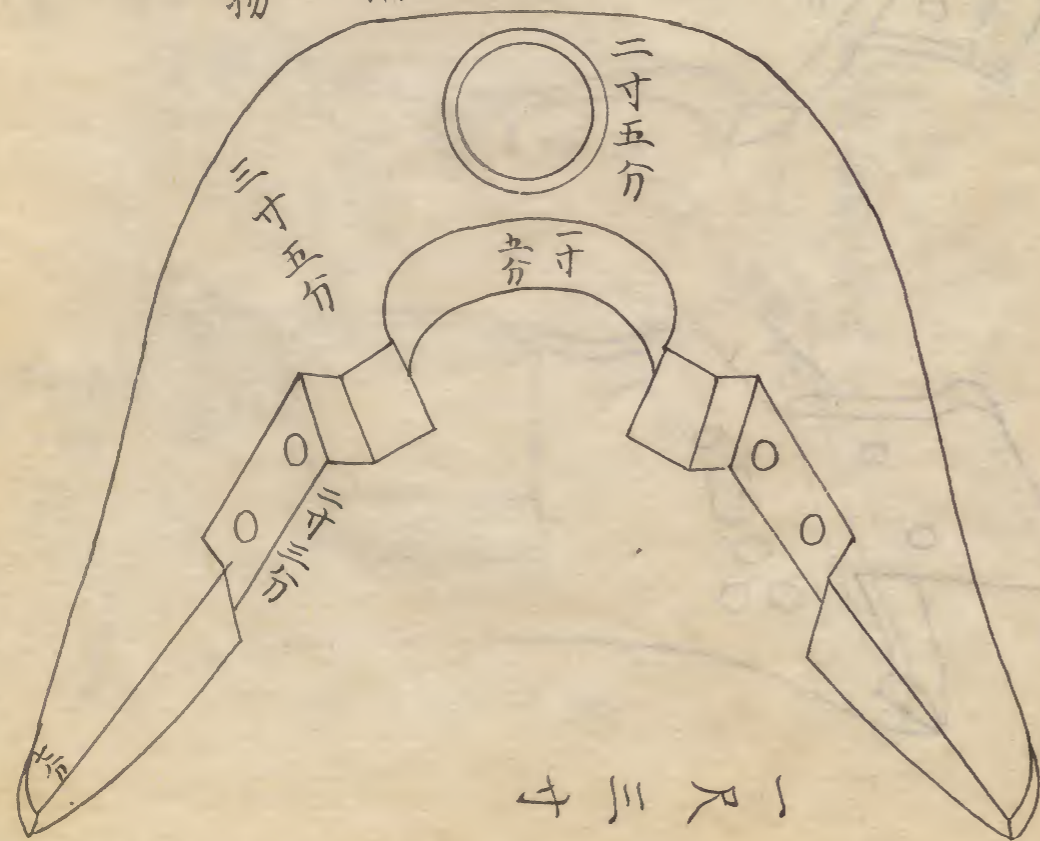
一尺一寸五分

後輪紋
大廿如圖



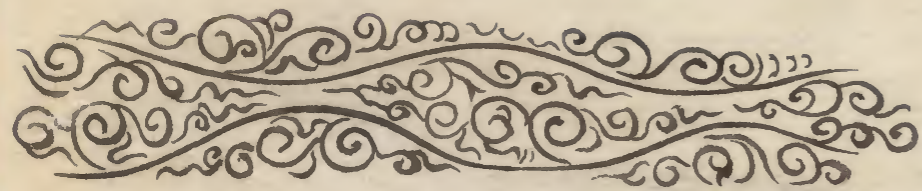
赤銅置物

後輪

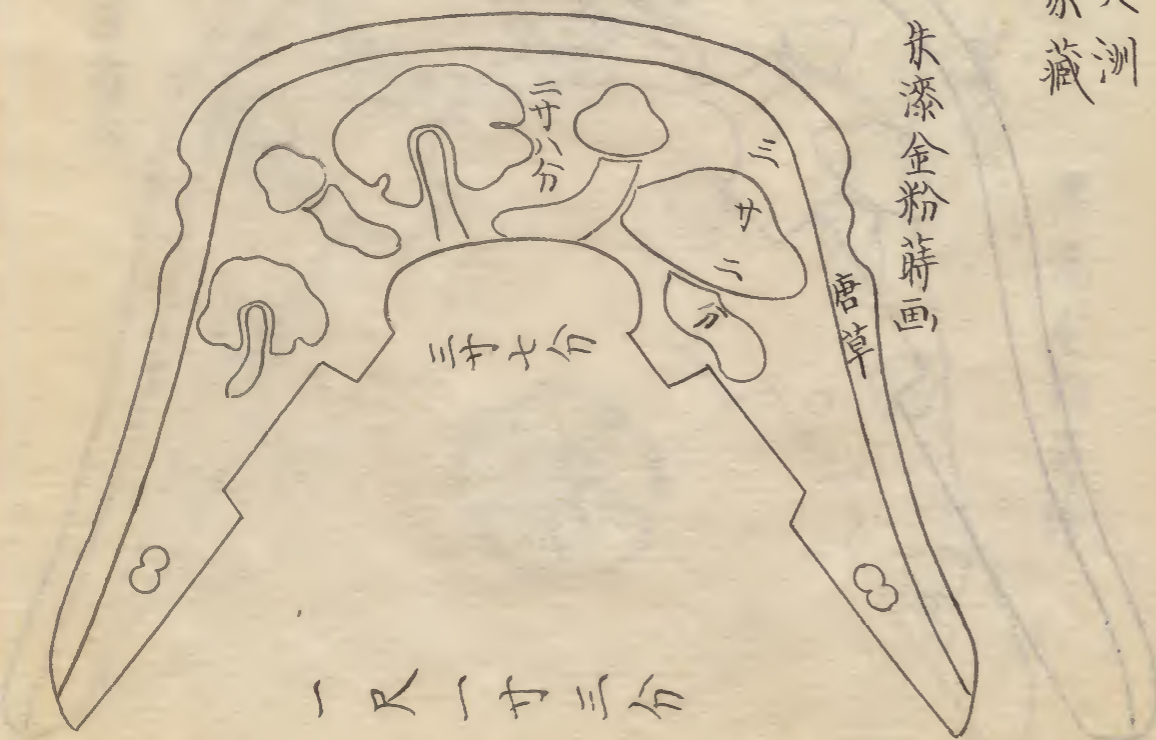


一尺三寸

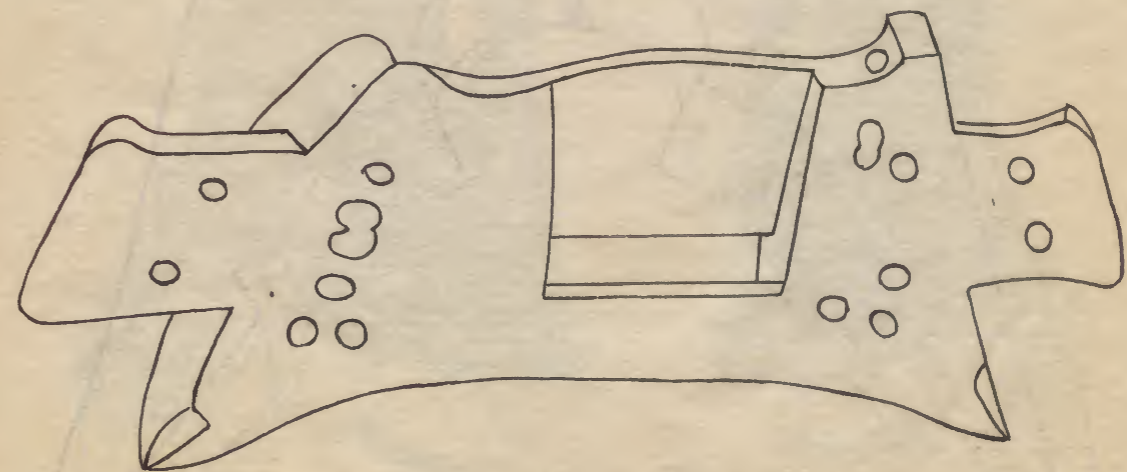
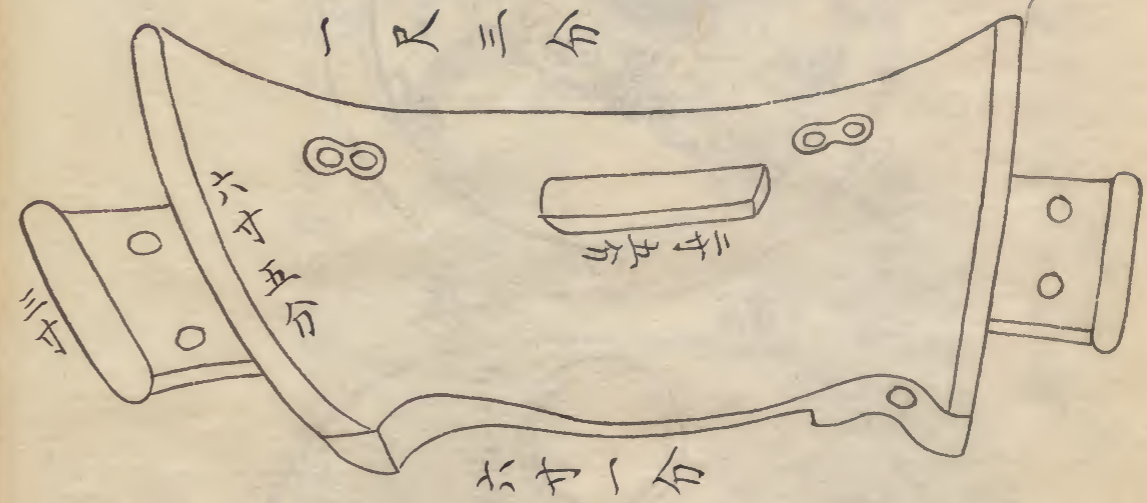
一 梶原景時鞍
大洲家藏



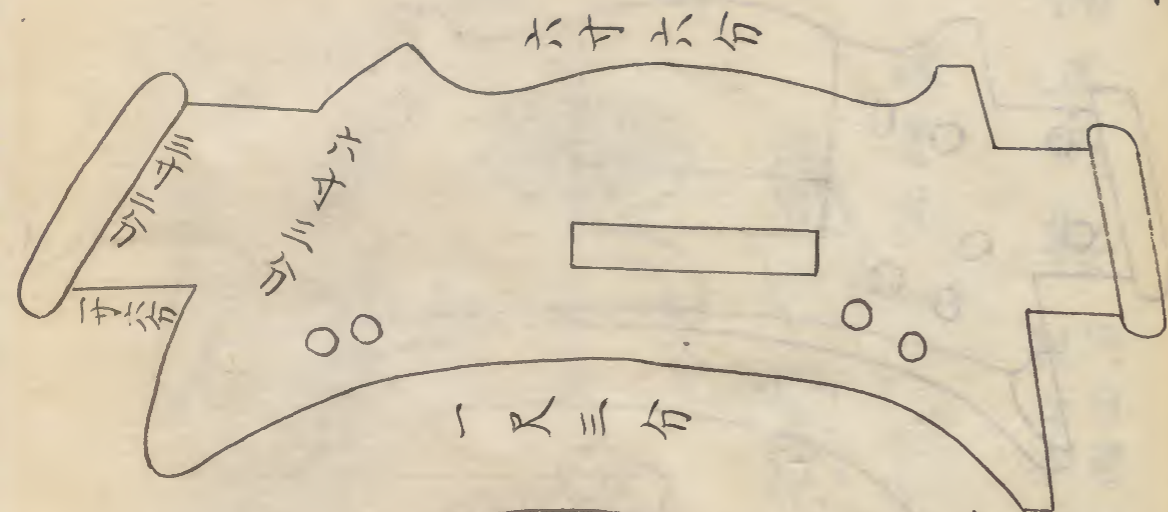
前輪



一尺一寸三分



一
同



裏

黒漆金粉蒔繪

後
輪



朱漆金粉蒔繪

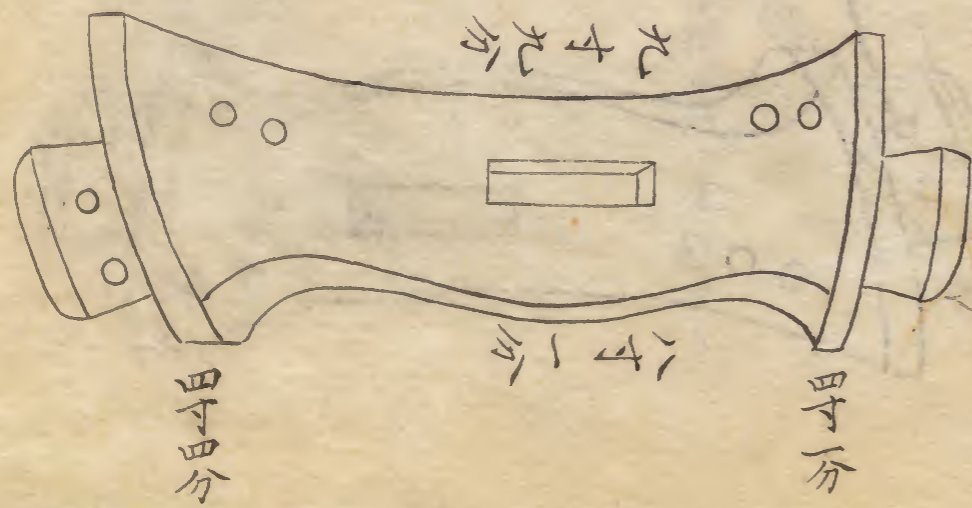
前輪



總青貝

二寸一分

一尺七分



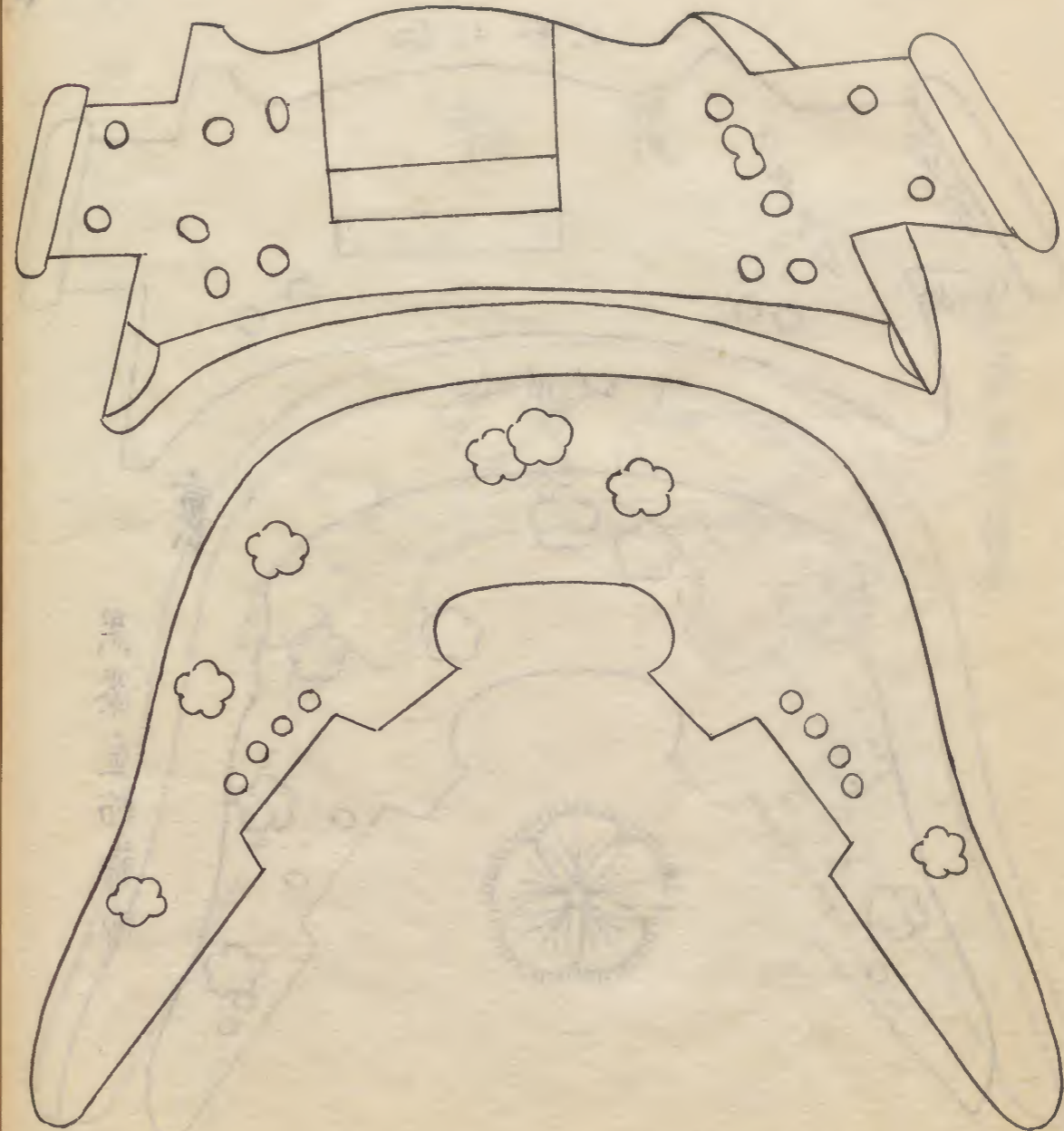
九寸九分

四寸四分

四寸分

一楠正成鞍

河内國錦部郡
觀心寺中院藏



前輪



二寸三分

一尺三分

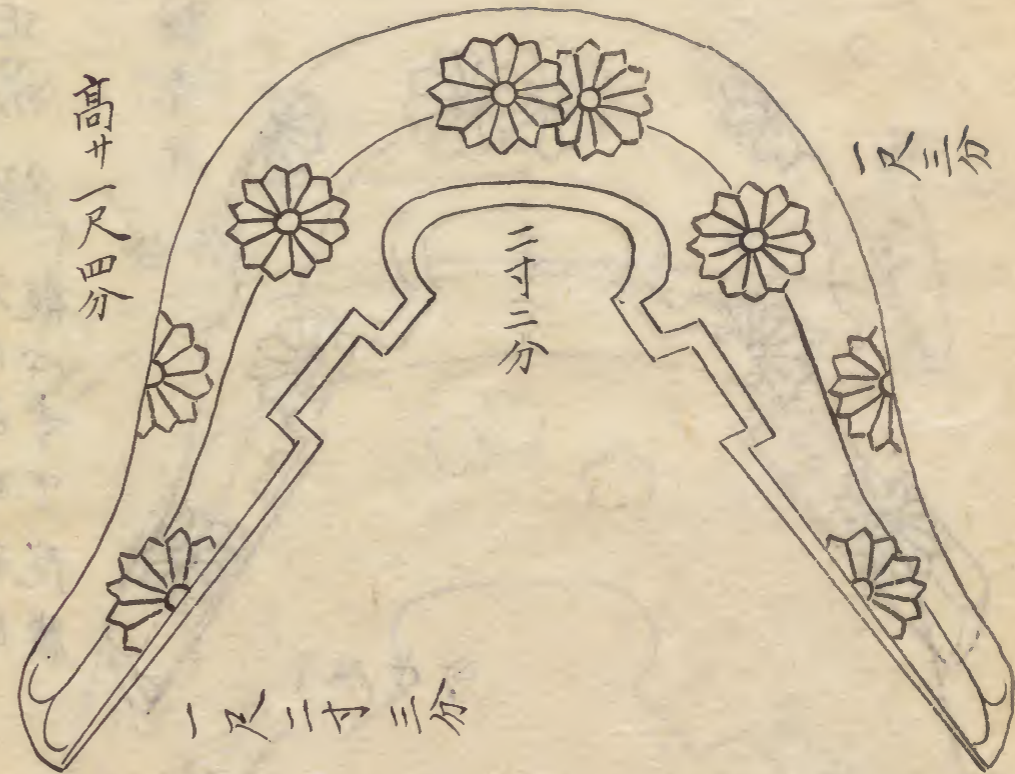
此裏楠正成ト金銘アリ

鞍鐵龍銀置物

一楠正成鞍

大和國信貴山本覺院藏

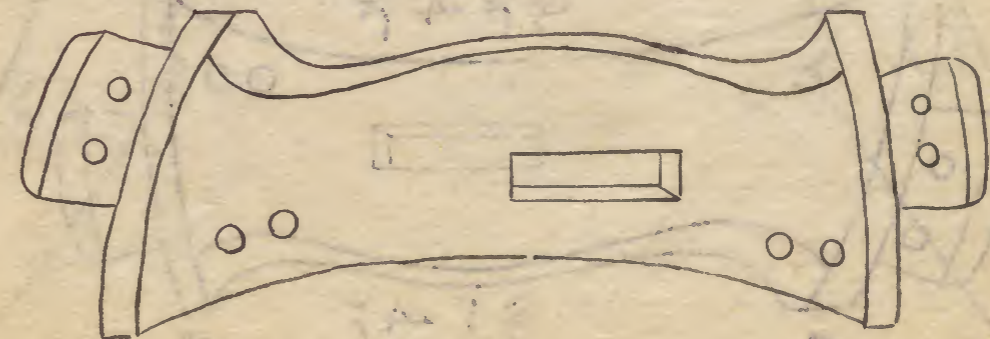
後輪



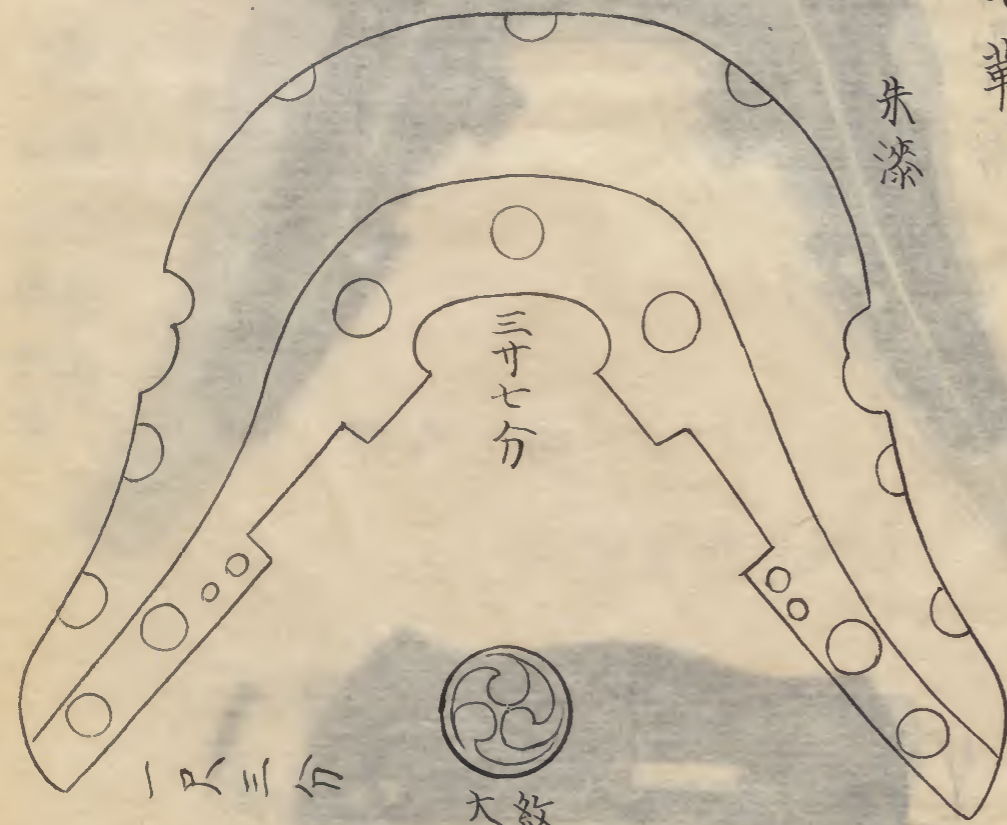
高廿一尺四分

二寸三分

一尺二寸三分



一 大赤漆皮七鞍



朱漆

三寸七分

一尺三分



大如圖
紋赤漆高時繪

後 輪



一尺四分

三寸四分

一尺三寸五分

一大館次郎鞍 相模國鎌倉
極樂寺藏

黒漆紋大廿二寸五分青貝

前輪



高九寸二分

廿二寸



後輪



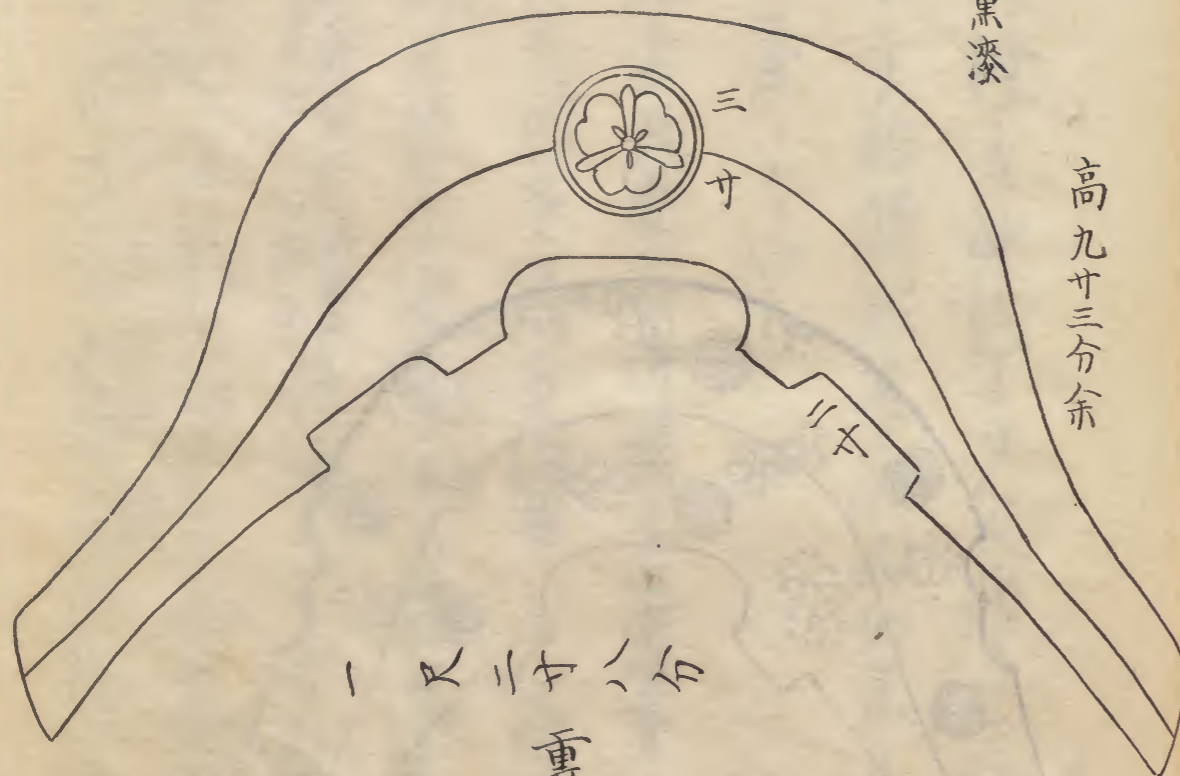
高一尺二寸八分

一尺三寸五分

一尺三寸五分



輪 後



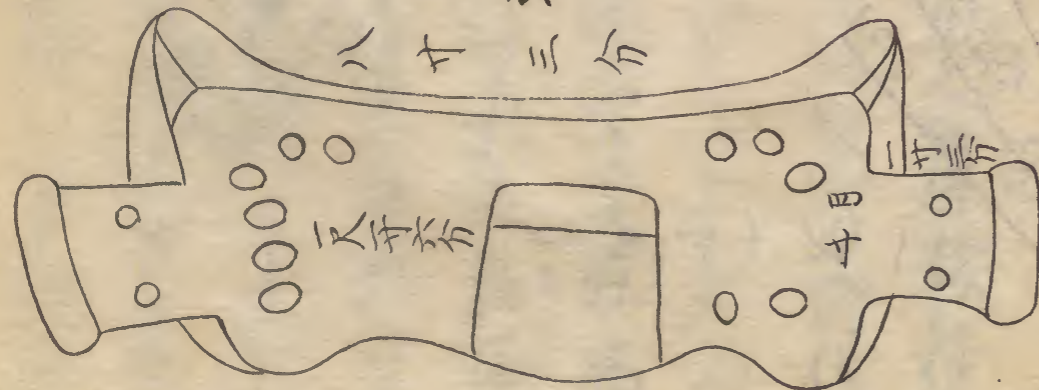
黒漆

高九寸三分余

一尺二寸二分

裏

八寸三分



輪 前



黒漆

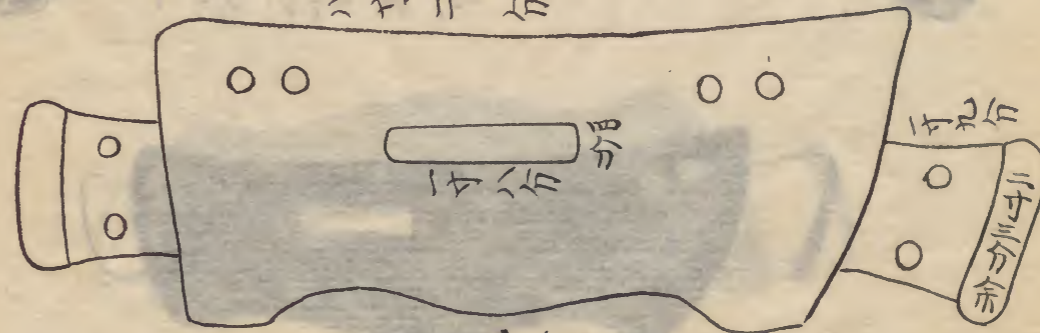
高八寸四分

一尺六分

表

二寸七分

黒漆



八寸九分

一伊勢守貞信作鞍

一 伊勢守貞宗作鞍

表 櫻ノ花水巻
裏 葡萄金時画



以上集古十種

一 鞍鏡を神代より人拾りてのち唐鞍移鞍。
水干鞍。賤鞍等の品出来ハハソツの神代より
の事ト云

推古天皇の神時唐客を迎ふるに莊馬七
十五匹を海石榴布いらいちよ巻ハされ又新羅任あらまき
那まかの使を迎ふるに莊馬を遣ハされ一奉
見え一紀莊馬といふは唐鞍の事われハ
是や唐鞍の始ナリト云よりナリト云ハ後乃
世に西宮記に大嘗會御禊。公卿ハ唐鞍。四位

五位和鞍。杏葉をのけ。尋常行幸。五位以上
和鞍。唐尾を結ふ。近衛次将移馬。唐尾を
結ふと見え。又禁秘御抄より。近衛次将。水干
鞍を用ゆ。移着和鞍。物多し。すとも。記
させ。後不其外。春日祭の使。加茂祭の使。悉
必ず唐鞍なり。唐鞍の具。橋。四緒。表敷。
鐙。力革。銜。銀面。角袋。尾袋。雲珠。頸總。大
滑。革鞞。杏葉。攝蝶。餉付。手綱。差。繩。引差
繩。鞞負。鞍覆等なり。
物具 妙 飭抄にハハ子

あり。餉付なり。頸總の所。鈴あり。嘉禎
二年四月廿三日。加茂祭通成朝臣使節入
道大相國の唐鞍を借請。ハハ子鈴なり。
と。あれハハ子と頸總の於。用ゆ。事も
用ひ。さる。事もある。や。又。腹診といふ物も
あり。長秋記の保延元年の條。加茂祭に
鎧馬の具。腹診なり。近衛用ひ。す。と。見へし
り。其後。建暦元年十月廿八日。所禊に光明
峯寺攝政干時内大の供奉。其時の唐鞍なり。

腹鉈をこのけられたる、有職抄又如何なる故
唐鞞の具を注せし物と云ふ腹鉈ハ見之
るに多し春日社の唐鞞の圖も腹鉈ハ
見之十五 軍器考補正

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

BOOK 11

